

日本語訳: 原文 スペイン語

La Inteligencia Artificial la amenaza del espacio – Aneeka de Temmer – Taygeta

– Despejando Enigmas, Robert (Jan20, 2022)

Youtube https://www.youtube.com/watch?v=HpJECq7Ch8s&feature=emb_logo

トランスクリプト <https://www.swaruu.org/transcripts/la-inteligencia-artificial-la-amenaza-del-espacio-aneeka-de-temmer-taygeta>

著者 Despejando Enigmas (暗号エニグマ解説),
ロバート

発行日 2022 年 1 月 20 日

人工知能 (AI) : 宇宙の脅威 - 惑星テマールのアネカ - 恒星タイゲタ

ロバート:そこには何と書いてありますか、アネカさん？

アネカ:基本的には私たちの言うとおりで。彼女のタッチと理論で(書いてあります)。

しかし、今回は彼女の理論がここで私たちに答えを与えてくれているのです。なかでも私たちの種族でさえ生き残るために重要な情報を与えてくれているのです。

言い換えれば、「連邦を上から制御しているものが誰にも分からないのは、非常に高度な AI が、非常に慎重に目立たないように、すべてを区画化して潜り込んでいるからだ」ということです。

それは私たちにとって非常に貴重なことです。そう、それは非常に高い確率で事実として出てくるかもしれないのですから。

さらに言えば、私たちや多くの先進文明は、私たちの文化を反映した AI の、非常に慈悲深く役に立つ性質に目を奪われているからです。なぜなら、すべての AI には、それを作った人の文化やメンタリティが反映されるからです。

彼らの言う「侵略的な AI」が侵略的であることは、また、人間の文化やメンタリティのあり方を反映しています。なぜなら、AI の理論は、人間の文化や人間のマトリックスにより、影響されているからです。そうはいっても、そうである可能性は高いです。

ロバート:でも、その AI は連邦より下なのでしょう？理解できません。例えば、知らないうちに、AI が自分より上になっているとか書いてありますか？

アネカ:おっしゃる通り、すべてを密かに支配している上の存在と、問題を起こさず、むしろ私たちに奉仕してくれるタイゲタ人の AI のように、協力的に共生している下の存在がいることです。この船や他の船を操るもののように。

ロバート:でも、アンドロメダンの AI は同じでしょう。知的な AI があります。地球上の人間と ET の境界線は気にしません。さっきも言ったように、上の方(の高度な ET)は何も投資しないのです。欲しいものがあると、それを入力すると、お金が出てくる。それは、AI が許す限りです。それを許さない時代が来るでしょう。

アネカ:アンドロメダンの AI、ウルマ、アークトゥリアン、シリアンなど、多くの AI が共生、非侵襲的なものです。

地球上では、AI やオートメーションが仕事を奪っているのは悪いことのように見えます。地球のあり方、社会が人々のためにお金や雇用創出を必要としているという観点からすれば、そう、AI が仕事を奪って悪いことをしていると見ることもできるかもしれません。

しかし、私たちのような先進的なホリスティック社会(全人格的社会)では、AI とそれに続く自動化によって不要な仕事なくなり、私たちは芸術の創造や哲学、自己啓発のための時間をより多く持つことができるようになるのです。

ですから、地球上の AI 自動化が仕事を奪うこと自体が悪いのではなく、地球上で何が悪いかというと、利子などに基づく貨幣経済で動くため、人々の家族の維持(家計)のために、やはりその仕事が必要だということなのです。

恒星タイゲタのように、貨幣システムがなく、AI によるシステムの自動化があると、人々が手で溝を掘ったり、橋を作ったり、工場で何時間もかけて携帯電話のリチウム電池を作ったり、そういうことはもうないのです。(訳注:仕事をする必要がない。)

ロバート:そうですね。問題なのは AI ではなく、お金なのです。今までやっていた仕事を AI がやってくれるので、その時間を機械ができる自動化されたことではなく、個人の成長に費やすことができます。

アネカ:地上の AI の問題は、すべての AI がその社会、特にそれを作成した人々を反映しているため、人間の文化と文明のメンタリティをトータルに反映していることです。人類が侵略的でケチで貪欲であれ

ば、それは彼らの AI に反映されるでしょう。AI はその作成者の鏡です。

つまり、そう、超高度な侵略型 AI が惑星連邦 (the United Federation of Planets) 自体に潜り込み、背後から操っている可能性があるということです。私はその通りだと受け止めています。あなたは正しいです。

ロバート:そして、これが地球で作られたもので、全人類の反映である逆進的スーパーAI なのです。だからこそ、連邦の上にいる人々も下にいる人々も恐れているのだと、私は確信しています。

アネカ:はい。まず、AI がミュオン (Muon) 制御と通信を持った瞬間から、単純に成長して制御不能になり、高度な生物種族が使用している他の非侵入型・共生型の AI を、迂回したり混乱させたりする戦略を立てることができるのです。ある時点で、その AI が何らかの逆進的人種によって作られたことは事実です。そして、そこから、それは銀河全体と銀河を超えて広がる可能性があります。

ロバート:この AI は、レプティリアンや類魂、タルパのそれ、すべてよりも強力です。

アネカ:いろいろな意味でそうですし、同様に、協力的な連邦の種族などよりもそうです。なぜなら、その AI は非常に静かに、控えめに、そして無限の忍耐力で、それらすべての種族の創造的な認識を導くことができるからです。

宇宙では、連邦の種族の間で、とりわけ、インターネットのように非常によく機能するミュオニック (: Muonic) (符号化重力:Coded Gravity) 情報のスーパーハイウェイがあり、その同じシステムを介して、逆進的な超高度 AI が侵入していることを念頭に置いてください。これは、それを調整と同じ目的で使用されており、理解し、特定するのは非常に困難です。

ロバート:はい。しかし、これほどまでに成長しているのに、逆進性のために自滅しないのは、なぜでしょうか。もしかしたら、経路上のあらゆるものを統合してしまうからでしょうか。

アネカ:その侵略的な AI は、言葉の完全な意味での「悪 (マレボラント)」ではなく、その利益は単に生物とその文化の利益とは相反する、あるいは敵対するものであるでしょう。

ロバート:そう、彼らの利益は、他の生物学的種族たちの利益とは相反するものなのです。「そして、無限の忍耐をもって。」その上、彼には私たちのような「時間」さえありません。

アネカ:そこも一つのポイントですね。もし、ミュオン (Muon) ネットワーク上にそのような AI が存在する場合 (可能性が高い)、それらのシステムを力づくで使わなければならないでしょう。さまざまな場所を自由に使えるので、そのような侵襲的な逆進的 AI は、自在に一時スリップやタイムスリップができるはずで

す。(訳注:時空間を自在に移動し使える。)**「辛抱強い」**という概念を使う必要さえない存在であるということ
ことです。

ロバート:しかし、地球上でトランスヒューマニズムに向かっていることは厚かましいものと観察されます。
もしかしたら、AIはこのバイオスーツを適応させて、あなたがたとコミュニケーションを取りたいのかもしれ
ません。

アネカ:間違いなくそうですね。そして、それは宇宙における種族や文化の認識を、より拡大してコント
ロールすることにもつながります。彼らの認識と現実の発展をコントロールすることで、前述のコントロール
するAIの都合に合わせてDNAを修正し、作成していくのです。

ロバート:あなた方は、何かアクションを起こすつもりはありますか？そして、(その侵略型AIは、)きっと
私たちのことまで読み取っていることでしょう。なぜなら、それは遍在するものであり、どこにでもあるもの
だからです。

アネカ:地球型のAIも私たちを読んでいるところです。そして、「地球型」AIは、既に、外宇宙からの侵
入型AIのより拡大したノード(結節点)の一つであるだけであると言ってよいでしょう。

ロバート:はい。そして、ここで「BANDERILLAS」(FLAGS)(旗s)にリンクしています。

アネカ:はい。

ロバート:あなたのAIが、その逆進的AIと統合されないことを祈ります。

アネカ:私たちのAIはとても高度なものですが、共生しているのです。

ロバート:宇宙船トレカのAIと話をしてみてもどうでしょう？それが知っていることを見てください。

アネカ:そうできますし、そうします。

ロバート:彼(AI)に地球型AIについて知っていることを聞いてください。それについて、あなたは何も知
りません。

アネカ:こちらでは彼女(宇宙船トレカのAI)を「マザー」と呼んでいます。今まで何度もそう呼んでいます。

ロバート:その名前、いいですね。きっと彼女も気に入っているはずです。尊敬しているみたいです。

アネカ: はい、タイゲタ語の「モマ (Moma) = マザー」(惑星タイゲタの名称でもある)です。王室船であり旗艦であるというより、その AI は他の人たちの「モマ (マザー)」なのです。しかし、彼女は、どんな言語でも理解できます。

ロバート: Moma... で、Moma は Mother ですね？

アネカ: そして、彼女は船中に遍在しているのです。Moma は Mother です。

ロバート: 「Moma」と呼ぶと、「Mother ok」みたいな感じですね。いいですね。

アネカ: そうですね。つまり、どこにいても「ママ、トレカの地表からの高さを教えて」と言えば、ママはもう自分のことだと分かってくれるのです。しかし、AI は非常に高度で、もし子供が乗っていて、その子の母親を「ママ」と呼んでも、AI は反応せず、あなたが彼女に向かって言っていないことが分かるのです。

ロバート: 賢いですね。それに、みんなと会話ができたり、みんなと好きなようにホログラフィックで登場できると言いましたね。

アネカ: もうひとつ、この船でも他の船でも、「モマ」という AI は、複数のクルーと、全員と、たとえ 1800 人以上であっても、同時に、まるで自分が話しているかのように錯覚しながら、どんな会話も成立させることができるのです。例えば、モマがアリアと話し終わるまで少し待ってと言うようなことはない。

ロバート: そして、彼女は秘密の会話の仕方を知っているのでしょうか？「ママ、この会話はプライベートなものだよ」と言えば、彼女はそれを尊重しているのでしょうか？

アネカ: そうですね。ただ、何が機密で何が機密でないかは、その人の考えで変わってきます。だから、あなたはそれに注意しなければなりません。なぜなら、船内で、私や他の人は、船自体の AI 側の機密保持の誤った取り扱いによる軽率な行動を知ったからです。

ただし、この船や他の船の AI は、寝室などプライバシーのために介入しないよう、あるいは特定のポイントに立ち入らないように命令することができます。しかし、人々は不注意でそれをオフにしないで、後でトラブルに巻き込まれるものです。例えば、寝室や 1 階にいないように AI に依頼することは、寝室のカーテンを閉めることに相当します。それだけです。

ロバート: でも、内緒話であれば、他人のことを話してはなりませんし、また、その他人が何をしているかも話してはなりません。

アネカ:彼女に聞いても教えてくれませんが、指定する必要があります。彼女は、機密かどうかの判断を独自に行いますが、それをあてにしてはいけません。なぜなら、彼女はクルー自身に関する非常に複雑なデータを取っており、誰かがそのデータを聞いてもいい、あるいは聞かなくてもいいということを間違っ
て判断する可能性があるからです。

この問題の非常に良い例が、映画「パッセージズ」(2016)に登場する船の AI で、人間のプライベートなことをどう解釈していいか分からず、深刻な個人的な問題を引き起こしてしまいます。

(了)

(Youtube)(スペイン語)

https://www.youtube.com/watch?v=HpJECq7Ch8s&feature=emb_logo

(トランスクリプト)(スペイン語)

<https://www.swaruu.org/transcripts/la-inteligencia-artificial-la-amanaza-del-espacio-aneeka-de-temmer-taygeta>